

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容①】 一人一台端末とクラウドの活用による個別最適な学び ～学びの成果をまとめる～

- 様々な学習場面で、一人一台端末を積極的に活用し個別最適な学びの充実に取り組んだ。
- 特に、学びの成果をまとめる場面におけるクラウド活用を進めることで、児童が好きなタイミングで自身の変容についての振り返りを行ったり、他者の様子を参考にすることができ、学びの深まりにつなげることができた。

(クラウド共有を活用した主な取組実践)

【音楽科】

鍵盤ハーモニカの演奏

音楽科の鍵盤ハーモニカの演奏で、**見本動画をクラウド上にあらかじめ掲載**しておくとともに、**各自の指使いを撮影してクラウド上に提出**させクラス全体で共有した。

<成果>

- それぞれの児童が授業中や休み時間、更には家庭でも、好きなときに必要な動画を確認でき、個別最適な学びにつながった。
- 自他の演奏の様子を後から客観的に確認することができ、児童・教職員ともに振り返りに生かすことができた。



← 2人ペアで指使いを撮影

各自の演奏をクラウド上で共有



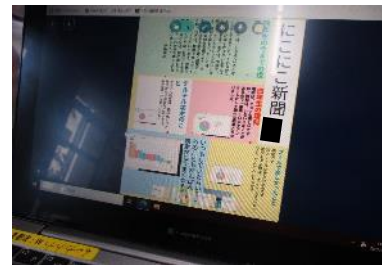
【国語科】

新聞づくりの活動

国語科で、他のクラスにも知らせたいニュースを新聞にまとめる際、**一人一台端末を用いて新聞を製作**した。また、1時限ごとに**途中経過をクラウド上に提出**させクラス全体で共有した。

<成果>

- 端末上で新聞づくりを行うことで、レイアウトや見出し、記事内容などを何度も試行錯誤でき、より伝わりやすい紙面づくりについての学びの深まりにつながった。
- 途中経過をクラウド上で共有することで、友達のまとめ方や表現からアイデアを得ることができた。



一人一台端末を活用した新聞づくりの様子

【体育科】

学習カードの記録

体育科の学習（下の写真はてつぼう運動）で、**1時限ごとのめあてや振り返りを記録する学習カードをデジタル化**し、端末上で作成することとした。**作成した学習カードはクラウド上で保存**することとした。

<成果>

- 紙のカードと比較して、端末上に記録が保存されていることで、児童が好きな時に手軽に振り返りを行うことができた。また、今後は学年が変わっても振り返りが容易になる。
- 教員にとっても、クラウド上からいつでも児童の学習の記録を確認することができた。



てつぼう運動の学習の記録を端末上で作成し保存

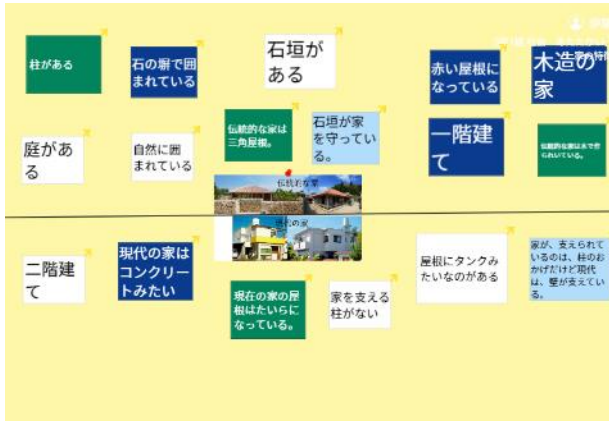
リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容①】一人一台端末とクラウドの活用による協働的な学び ～考えや意見を共有する～

- 児童が調べたことや気付いたこと等を学習支援ソフトを用いてクラウド上で共有し、共同編集による整理やまとめを実施した。
- 共同編集により様々な意見が即時に反映、整理されることで、児童は互いの意見を比較し、共通点や相違点を見出すとともに、更に考えを深めることができた。

（共同編集を活用した主な取組実践）



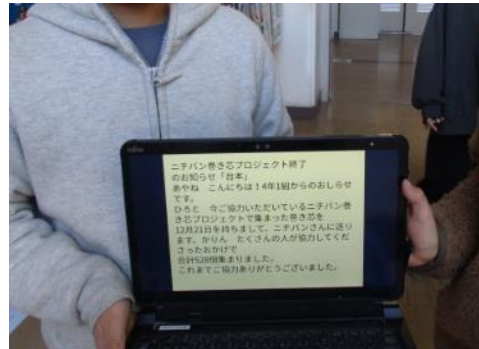
社会科の学習で、沖縄の伝統的な家と現代の家を比較して、各自が気付いたことを学習支援ソフト上のノート上で共有し、分類・整理を実施。各児童の意見が即時に共有されるため、伝統的な家に対する意見が出ると、すぐにそれと比較して現代の家に対する意見があがる等、活発な話し合いが見られた。

総合的な学習の時間に、本校付近の「東寺」と修学旅行で訪れる香川県善通寺市の「総本山善通寺」についての調べ学習を実施。まずは身近な東寺について、各児童が調べたことをクラウド上に提出し、似た意見をまとめるなどの分類を共同編集により実施。友達と交流しながら様々な意見に触れることで、自分にはなかった気付きを得たり、新たな疑問が生まれたりしている様子が見られた。【左図】
また、学習の総まとめでは、東寺と善通寺についてこれまでに調べてきたことをクラウド上で共有。共通点や相違点について、ベン図を用いて話し合いながら共同編集で整理することで、理解の深まりが見られた。【右図】

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等 ～端末の文房具化を意識して～

- 端末を毎日持ち帰り、充電を各家庭で行うことを徹底することができた。充電をしっかりと行うことで登校後、端末はいつでも使用できるように各自の手の届く場所で保管している。
- 学校全体で宿題を「デジタルドリル」にする曜日を設定することができた。また、日常の家庭学習はもちろん、長期休暇中の課題にも積極的にTeamsや学習支援ソフト等を活用することができた。

（一人一台端末の文房具化が進んでいる校内の様子）

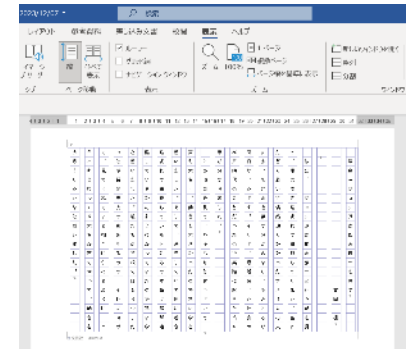


南大内小学校では「一人一台端末の文房具化」をこころがけ、筆箱を学習場所に持って行くのと同じように一人一台端末を持ち運ぶようになることを目標に学校全体で取り組んできた。

3年生以上は毎日一人一台端末を持ち帰り、充電は家庭で行うように家庭とも連携を取ることができた。【左図】

校内放送を通じて、4年生が学級の取組を発表した際の原稿は学習支援ソフトを活用して作成していた。児童に話をきくと、「先生にチェックしてもらった後、手直しが簡単にできる」という理由から学習支援ソフトを使用することを選択したと話してくれた。【右図】

（長期休暇中の課題におけるクラウド活用）



6年生は卒業文集の下書きをする際にTeamsを活用した。そうすることで、担任は冬季休暇中であっても児童の原稿を確認することができ、アドバイスや手直しを行うことができた。

担任は、時間を有効に活用できるだけでなく児童が課題に取り組んでいるかを確認することができた。また児童は、指摘された修正を容易に行うことができた。

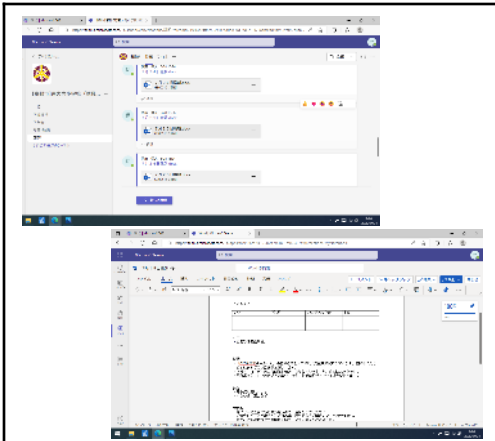
リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容④】 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修 ～情報共有を意識～

- 週2回実施している職員朝会にクラウドを活用して情報の確実な共有に取り組んだ。
- 教員研修では「自ら学ぶ」姿を大切に放課後の研修や夏季休暇中の研修を実践することができた。それらの研修では確実な情報共有を意識して、教職員が一丸となって取り組むことができた。

(情報共有を意識した職朝)



本校ではクラウドを活用しての職員朝会を実施した。教職員全員で共有機能を活用することで、職員朝会に参加できない教職員が前もって伝達事項を入力できることが大きなメリットとなった。

また、情報の共有が確実になり、非常勤や時短の教職員にとっても大きな役割を果たすことができた。

(自ら学ぶ教員を目指して)



夏季研修では、他校の実践やリーディングDXスクールに関する情報など、それぞれが自分で選択して動画を視聴する研修を行った。【左図】

その後、分かったことや気付いたことをクラウドを使って交流したり、児童に2学期以降つきたい力、つけてほしい力について話し合ったりした。【中図】

また、月に一度、輪番制で授業力を高めるための研修を行った。担当者はクラウドや一人一台端末を活用して研修を企画し、自分の実践を広めたり、悩みを相談したりすることで互いの力を高め合う研修となった。【右図】

教職員がそれぞれインプットした情報をアウトプットし、それらをしっかりと共有することで研修して身に付けたことがより研鑽されることになった。

【取組内容⑤】 地域・保護者への理解とICT普及 ～学校の取り組みと地域・保護者への働きかけ～

- 様々な場面において保護者連絡ツールやForms等を積極的に活用し情報発信の充実に取り組んだ。
- 特に、地域へは学校運営協議会を通じて一人一台端末を活用した授業を実践していることを伝えた。また、一人一台端末を活用していることで起こる問題や困りを相談し、それらに対するアドバイスや解決につながるヒントをいただくことができた。保護者へは保護者連絡ツールへの登録をお願いし、その活用法を伝えることで全家庭登録を実現することができた。これにより今まで以上に学校と家庭の情報共有を豊かにすることができた。

(地域への働きかけとICTを活用した主な取組実践)



学校運営協議会で学校評価アンケートの結果を伝えた。児童アンケート項目に「一人一台端末を使う授業は楽しいですか」という項目があり、「そう思う」「大体そう思う」が90%になることから一人一台端末がいかに児童にとって大きな役割を果たしているかを伝えた。しかしその反面、一人一台端末を使う際のルールや使い方等で困りがあることを相談し、アドバイスや解決につながる助言をいただくことができた。



大きな行事はYouTubeでライブ配信を行っている。12月に八条中学校吹奏楽部の方々が本校体育館でクリスマスコンサートを開催してくれた際もライブ配信を行った。【左図】

今年度は5月の1年生を迎える会からライブ配信を行い、1年生保護者を対象にその様子を発信した。運動会や学習発表会でも同様に全学年の保護者にライブ配信を行い、仕事等で来校できない保護者や当日残念ながら欠席した児童が視聴した。6年生を送る会でもライブ配信を予定している。ライブ配信のためのリンクは保護者連絡ツールを活用して各家庭に配信している。【右図】

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容⑤】 研究成果の積極的な全市発信

- 市内全ての小・中学校の**GIGAスクール推進主任を対象にオンデマンド型の動画配信研修を実施**。
本校を含むLDX指定校（京都市：小2校、中1校）が取り組んでいる研究成果を全市発信した。
- 併せて、LDX事業の開始時に指定校3校合同で実施したキックオフ研修会の内容についても、講演者の許諾をいただいたうえで全市公開し、他校における次年度のICT活用に向けた意識付けに活用いただけるようにした。

学習面・校務面などあらゆる場面での一人一台端末の活用

端末の文房具化が進み、子どもが主語となっている学びの姿をたくさんの写真を使って紹介。



教員研修も「自ら学ぶ」。個別の動画視聴やクラウド上での意見交流など、ICT活用を通じた教員研修の充実についても紹介。



南大内小 唐橋小 八条中

研究成果の全市発信



テーマは「今までの自分を超越る」。
ICTを活用した授業計画(PLAN)→授業実践(Do)→生徒アンケートや公開授業・研究授業での評価・改善(Check)→次の授業に向けた課題提示(Action)のサイクルによる全教職員のスキルアップの実践を紹介

地域や家庭と協力し合って行うデジタルシティズンシップ教育



積極的な端末活用とともに故障やトラブルの可能性も増加。
LDX事業の指定を受け、特にデジタルシティズンシップ教育に重点的に取り組むこととなった経過を説明。



研究開始時に児童アンケートによる客観的な実態把握を行ったことこの紹介。

- ①家庭でのルールは守っている子が多い
- ②動画・ゲーム(娯楽)で使っている子が多い
- ③学習で使っている子は少ない



人権参観懇談会当日の授業映像も交え、児童が情報機器とうまく付き合う方法を主体的に考える授業の様子を紹介。

外部講師によるご講演もアーカイブ配信で取組を波及！

R5.5月にLDX指定校の3校合同キックオフ研修会を実施。研究の開始にあたり多くの示唆をいただきました。
ご講演内容については、許諾をいただいたうえでアーカイブ配信を実施し、指定校以外にも積極的に取組を波及させています。

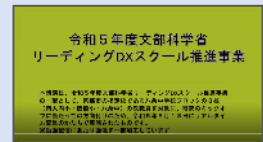
岐阜聖徳大学 教授 玉置崇 先生 「学校を元気にするGIGAスクール構想であるために」

(ご講演の主な内容)

- ◆GIGAスクール構想を理解する
 - ・なぜ一人一台端末なのか
 - ・なぜ高速ネット回線なのか
 - ・なぜクラウドなのか
- ◆授業における一人一台端末の活用例
 - ・働き方改革
 - ・個別最適な学び
 - ・つながることの容易さと拡大
 - ・学習の自己調整、振り返りの大切さ
- ◆情報モラル教育の次の段階を知る

京都市教職員以外もご覧いただけます

右図もしくは [こちらをクリック](#)



教科の枠を超え、全ての教員がICT活用の実践を交流し、授業改善につなげる